

## 昭和52年度第1回シグマ特別専門委員会議事録

日時 昭和52年4月28日(木) 11:00~17:30  
場所 日本原子力研究所東京本部第34会議室  
出席者 塚田 甲子男(主査, 原研)  
浅見 明(原 研), 飯 島 俊 吾(N A I G)  
五十嵐 信 一(原 研), 大 竹 巖(動 燃)  
小 幡 行 雄(原 研), 桂 木 学(原 研)  
小 林 捷 平(京大炉, 木村代理),  
坂 本 正 誠(原 研), 関 雄 次(M A P I)  
中 嶋 龍 三(法 政 大), 西 村 和 明(原 研)  
原 田 吉之助(原 研), 弘 田 実 弥(原 研)  
更 田 豊治郎(原 研), 松 延 広 幸(住友原工)  
山 越 寿 夫(船 研),  
講 師: 菊 池 康 之(原 研)  
オブザーバ: 浅 見 哲 夫(原 研)  
欠 席 者 安, 大田, 大野, 立花, 田中, 夏目, 能沢, 久武  
平田, 宮坂, 百田, 山室, 山本

### 配布資料

1. シグマ特別専門委員会内規(案)
2. 核構造・崩壊データ計画
3. 国際会合メモ
4. J E N D L - 1 ベンチマーク・テスト説明用資料

### 議 事

1. 主査の挨拶
2. 事務局報告(更田)

#### 1) 人 事

次のとおり委員の交代, 新任, 退任が報告され了承された。

弘 田 実 弥氏: 新任

高橋 博委員：退任  
飯島 勉委員→小幡 行雄氏  
後藤 頼男委員→坂本 正誠氏

2) Mass Chain Evaluation

資料(2)にもとづいて説明があった。とくに主査より次のような発言があった。BNLのPearlstein氏へ分担申込みの手紙を出したところ、mass regionを調整して欲しいとの要請があり、 $A=118\sim 129$ で合意に達した。燃料計量専門部会に核構造、崩壊データWGを設けて作業を始めたい。

なお、この件について後で審議することになった。

3) JENDL-1とENDF/B-IV

JENDL-1の1部には、ENDF/B-IVのデータをそのまま利用しているものがあるので、今後のトラブルを避けるためにもその部分を除いてJENDL-1を公開することにしたい旨が報告された。

4) JENDL検討会、学会総合報告およびInformal Meeting

標記の会合が行われたことが報告され、今後もこのような催しを継続して行いたいことが述べられた。

5) 学会編集委員、部門委員

学会編集委員は、更田委員の任期切れに伴い後任に中嶋委員が当たることになったことおよび部門委員としてシグマ特別専門委から更田委員が出ることになったことが報告され了承された。

6) 核データ小委員会(塚田, 更田)

この小委員会は原子核談話会が選挙母体になっている核物理委員会のもとにつくられたものであるが、本委員会もそれとCommunicationを密にしてゆく必要があることが述べられた。

7) Transactinide Nuclear Data(TND)のEvaluation

資料(3)により説明があった。次号の「核データニュース」に詳しくのせるのでそれを参照して欲しい。このTND evaluationについては、まだIAEAと正式にResearch agreementを結ぶまでに至っていないことが述べられた。

8) 国際会合

最近のCharged Particle Nuclear Data(CPND)meeting

(4月25日～29日)には田中(一)氏, 池上氏, 阿部氏が出席した。IAEA and Advisory Group Meeting on Fission Product Nuclear Data(9月)には飯島(俊)委員が出席の予定である。Specialist Meeting on Cross Sections in Structural Materials(12月)には大竹委員および浅見(哲)氏が出席の予定である。1978 Conf on Neutron Physics and Nuclear Data for Applied Purposes(通称Harwell Conf)については, 次の「核データニュース」に詳しくのせる予定であること等が紹介された。とくに, 主査よりHarwell Confのorganizing committeeのmemberになっているので積極的な意見があったら出して欲しい旨の発言があり, また, このConferenceに対する米国のadvisory committee memberからの提案の紹介があった。

#### 9) CCDN/CPLの合併

合併してNEA Nuclear Data Bankになる予定であるが, 1部に強い反対があり合併が延びていることが紹介された。(その後の連絡によればNEA運営委員会において合併が決定したとのことである。)

### 3. JENDL-1とベンチマーク・テスト(菊池(康))

トビックスの報告として, 標記の説明が資料(4)を用いて行われた。作業は51年12月に終了したが,  $^{239}\text{Pu}$ ,  $\text{Fe}$ などで若干問題点があるので現在検討中であることが述べられた。その後, 議論に入り, JAERI FASTとJENDL-1との関係等が討議された。

### 4. 52年度実行計画

#### (1) 52年度予算

更田委員より原研原子核データ室の52年度実行予算の概略説明があった。とくに, シグマ委員会旅費が逼迫しているので各WGに計画的な会合の開催を要請したい旨が述べられた。

#### (2) WGの改廃

熱中性子散乱WGが熱中性子文献グループになりCINDAおよびWRENDAグループとならんで恒常的なグループとして活動することmass chain

evaluationのために核構造・崩壊データWGが新設されること、核データ検索WGを廃止することが提案され了承された。

また、燃料計量WGの活動は転期にきていること、核データ評価WGと融合炉核データWGとのすゝめ方の問題が指摘されていることが述べられ、調整する必要があると報告された。これに関連し五十嵐委員より、4月18日に行われた核データ専門部会での討議結果が報告され、遮蔽用核データ、Transactinideデータ、evaluation用コードの開発などの提案があるが、当面はJENDL支援の専門部会としてすゝめてゆきたいと述べられた。桂木委員より炉定数専門部会の状況、中嶋委員より崩壊熱WGの状況の説明があった。

これらの説明について討議が行われ、

- 崩壊熱WGと核構造・崩壊データWGとは調整できるのではないか。
- 融合炉核データ、safeguardsのグループは小人数でneeds等の検討をするWGとし、必要なデータのevaluationは別のWGでやるような形態にするのがよいのではないか。
- 核融合、遮蔽WGの新設などの意見が出た。これらを含めて各専門部会で検討してもらい、運営委員会で決めることになった。

## 5. 53年度活動方針（概算要求）

更田委員より原研原子核データ室の53年度概算要求の概要の説明があり、その中で原子・分子データのテーマの新設を要求することが紹介された。なお、CRTとライトペンのsystemをつくって欲しいとの要望があった。

## 6. 委員会組織の検討、内規の検討

更田委員より組織の検討の主な動機、とくに幹事会あるいはそれに相当するものを毎月程度開催し、その会合で決められることはできるだけ決めてゆきたいとの主旨の説明の後、資料(1)にもとづき、「幹事会」の名称を「運営委員会」に改めること、監査小委員会を設けること、それぞれの委員会の構成、任期等について提案内容の説明が行われ討議を行った。その結果、原案に対して次の点を修正または付加することにした。

- 運営委員会の構成のうち「作業グループ・リーダー」とあるのをなるべく小人数にするため「作業グループ・リーダー若干名」にする。
- 「運営委員数は本委員数の1/3程度とする」を加える。
- 特別小委員会の規定を加える。
- 監査小委員の任期1年を明示する。

文章の細部については，運営委および監査委でさらに検討して決定することにし，大筋については了承された。

この承認を受けて運営委員および監査小委員の人選に入った。これに先立ち，内規の細部を決定した上で後日，人選を行ったらどうかとの意見があったが，本委員会は年2回程度しか開催できないため運営に支障を来すとの事情が説明され，人選を行うことにした。自薦，他薦がなかったため，幹事会案が提出され，次のように決定された。

運営委員会委員：主査，五十嵐，桂木，久武，百田，更田，松延，  
飯島，田中，中嶋，宮坂，大竹，関の各委員

監査小委員会委員：安，立花，能沢，原田，山室，山本の各委員

## 7. INDC 第9回会合の準備

更田委員より会合で報告する事項およびその準備状況の説明があった。また，Regional Conferenceを日本で開催する件について，考えを問われた場合には，日本としては1980年以前はTandem等の建設状況からして無理であると返答することにした。

## 8. 核構造国際会議の Pre-symposium

この会合が9月3日(土)に原研の東京本部で，a small symposium on Neutron Nuclear Data with emphasis on relevance to the nuclear data evaluationのテーマで行う予定であることが報告された。

## 9. 52年度核データ研究会

幹事会の提案をもとに

JENDL-2 と非中性子核データ，各利用分野と非中性子核データ，核構造・崩壊データ，荷電粒子核データ，光核反応核データの案が示され，とりあえず JENDL-2 と非中性子核データとすることにした。運営委で議論するので意見があったら出して欲しいとのことであった。

#### 10. 50・51年度2年報

JENDL-1 およびベンチマーク・テストのトピックスを中心に書くことになり，世話役には飯島，松延，大竹の各委員が推せんされた。詳細については次回の運営委できめることになった。

#### 11. Informal Meeting

次の学会での informal meeting をどうするかについて自由討議が行われた。

次回は52年度末の予定

以 上